

# 那珂遺跡 19

— 那珂遺跡群第51～54次発掘調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第525集

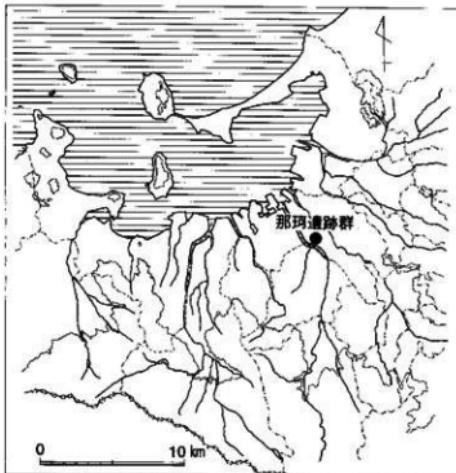
1997

福岡市教育委員会

# 那珂遺跡19

— 那珂遺跡群第51～54次発掘調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第525集



遺跡略号 NAK-51～54

遺跡調査番号 9512・9513・9528・9530

1997

福岡市教育委員会



## 序

福岡市の陸の玄関口である博多駅の南側には古くから大陸文化流入の先進地として栄えた「奴国」の拠点地域とされる遺跡群が広がっています。今回報告する那珂遺跡はその内の代表的な遺跡であり、近年の再開発に伴い現在までに60次に近い発掘調査が行われ、調査の進展とともに新たな知見が得られています。本書は都市計画道路博多駅五十側線整備等に伴って実施された第51次から第54次にかけての調査を報告するものです。調査の結果、限られた調査範囲ではありましたが、第37次調査で検出された国内最古の二重環濠の延長部分、真北方向に延びる古墳時代の区画のための溝や古代の大型建物を構成する柱穴等の遺構が検出されるなど、多大な成果を収めることができました。本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた福岡市土木局街路課、同じく水道局浄水課、地権者の八尋タネ子氏を始めとする多くの方々に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成9年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 町 田 英 健

## 例　　言

- 本書は、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成7(1995)年度に発掘調査を実施した福岡市博多区竹下5丁目、那珂6丁目所在の那珂遺跡群第51~54次調査の報告である。
- 本書に掲載した遺構・遺物の実測、撮影は福岡市教育委員会埋蔵文化財課の佐藤一郎・長家伸があたった。
- 製図は担当者の他、§1 第51次調査、§2 第52次調査の遺構を藤村佳公恵が行った。
- 本書の執筆は§1 第51次調査、§2 第52次調査を佐藤、§3 第53次調査、§4 第54次調査は長家が行った。
- 本書の編集は佐藤、長家が行った。
- 本報告の記録類、出土遺物は収蔵整理野の地、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

調査番号	9512	遺跡略号	NAK-51
調査地地籍	福岡市博多区竹下5丁目	分布地図番号	37-0085
開発面積		調査面積	42m <sup>2</sup>
調査期間	1995(平成7)年5月22日~5月27日		
調査番号	9513	遺跡略号	NAK-52
調査地地籍	福岡市博多区竹下5丁目	分布地図番号	37-0085
開発面積		調査面積	156m <sup>2</sup>
調査期間	1995(平成7)年5月31日~6月27日		
調査番号	9528	遺跡略号	NAK-53
調査地地籍	福岡市博多区竹下5丁目	分布地図番号	37-0085
開発面積	585m <sup>2</sup>	調査面積	220m <sup>2</sup>
調査期間			
調査番号	9530	遺跡略号	NAK-54
調査地地籍	福岡市博多区竹下5丁目8-2	分布地図番号	37-0085
開発面積	272m <sup>2</sup> 対象面積 272m <sup>2</sup>	調査面積	90m <sup>2</sup>
調査期間	1995(平成7)年10月9日~10月12日		

## 本文目次

§ 1 第51次調査	
I はじめに	1
1. 調査にいたる経過	1
2. 調査体制	1
II 調査の記録	4
1. 調査の概要	4
2. 遺構と遺物	4
§ 2 第52次調査	
I はじめに	7
1. 調査にいたる経過	7
2. 調査体制	7
II 調査の記録	7
1. 調査の概要	7
2. 遺構と遺物	8
3. 小結	11
§ 3 第53次調査	
I はじめに	13
1. 調査にいたる経過	13
2. 調査体制	13
II 調査の記録	13
1. 調査の概要	13
2. 遺構と遺物	14
3. 小結	14
§ 4 第54次調査	
I はじめに	19
1. 調査にいたる経過	19
2. 調査体制	19
II 調査の記録	20
1. 調査の概要	20
2. 遺構と遺物	20
3. 小結	23

## 挿図目次

第1図 那珂遺跡群と周辺の遺跡	2
第2図 那珂遺跡群調査地区位置図	3
第3図 那珂遺跡群第51次・第52次調査地域周辺図	5

第4図	那珂遺跡群第51次調査遺構配置図・出土遺物実測図	6
第5図	那珂遺跡群第52次調査遺構配置図	9
第6図	S A09柱列実測図	10
第7図	S D02・03・04溝土壙断面実測図	11
第8図	那珂遺跡群第52次調査出土遺物実測図	12
第9図	那珂遺跡群第53次調査区位置図	15
第10図	那珂遺跡群第53次調査全体図	16
第11図	1号溝及び出土遺物実測図	17
第12図	3号溝実測図	18
第13図	井戸実測図	18
第14図	2号井戸出土遺物実測図	18
第15図	那珂遺跡群第54次調査区位置図	19
第16図	那珂遺跡群第54次調査全体図	20
第17図	井戸実測図	21
第18図	出土遺物実測図	22

## 図 版 目 次

## § 1 第 51 次 調査

### I はじめに

#### 1. 調査にいたる経過

平成 7 年 3 月 9 日、水道局給水部浄水課長より、埋蔵文化財課宛に「埋蔵文化財の事前審査について（依頼）」として、博多区那珂 6 丁目 20 番都市計画道路博多駅五十川線現道内で計画されていた緊急時用連絡管整備事業の一環として連絡管布設工事に伴う埋蔵文化財についての事前審査願が提出された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡群に含まれるとともに、隣接する第37次調査においては日本最古の二重環濠とされる溝の一部が確認され、環濠の延長部分が現道内に延びることが予想された。埋蔵文化財課と浄水課により遺構の取扱いについて協議を行ったが、遺構の現況での保存は困難であるとして、溝が延びると推定される現道部分についてやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。発掘調査および資料整理に関する協議書を交わし、調査は同年 5 月 22 日から 5 月 27 日まで行われた。

#### 2. 調査体制

事業主体 福岡市水道局給水部浄水課

調査主体 福岡市教育委員会埋蔵文化財課

調査総括 埋蔵文化財課長 荒巻輝勝

第 2 係長 山口譲治

庶務担当 入江幸男（前任）内野保基

調査担当 事前審査 長家 伸（前任） 櫻本義嗣

発掘調査 佐藤一郎

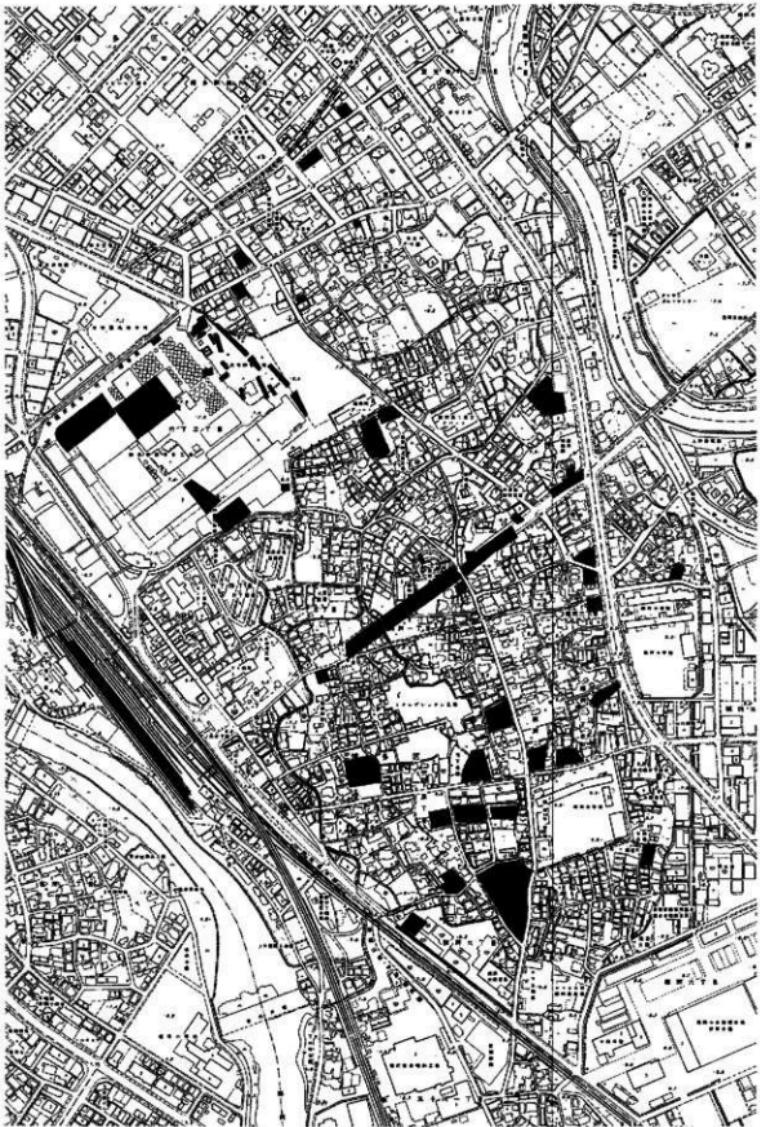
発掘調査・資料整理協力者 尾花憲吾・柴田博・中村米重・森本良樹・伊藤美伸・尾崎真佐子・河津信子・桑原美津子・為房紋子・福田友子・藤原直子・相川和子・田中ヤス子・藤野邦子・藤村佳公恵

その他、発掘調査に至るまでの諸々の条件整備、調査中の調整等について水道局給水部浄水課をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。



- |            |                   |              |             |
|------------|-------------------|--------------|-------------|
| 1. 博多遺跡群   | 7. 那珂遺跡群          | 13. 井尻遺跡     | 19. 赤井手遺跡   |
| 2. 稲荷城     | 8. 那珂深クサ遺跡、那珂君体遺跡 | 14. 日佐遺跡群    | 20. 三宅庵寺    |
| 3. 駿松遺跡    | 9. 板付遺跡           | 15. 須玖磨梨遺跡群  | 21. 野多目遺跡   |
| 4. 吉塚本町遺跡群 | 10. 諸岡遺跡          | 16. 須玖水田遺跡   | 22. 野多目古渡遺跡 |
| 5. 吉塚遺跡群   | 11. 省居遺跡          | 17. 須玖岡木遺跡   |             |
| 6. 比恵遺跡群   | 12. 五十川遺跡         | 18. 須玖山口日古渡跡 |             |

第1図 那珂遺跡群と周辺の遺跡



第2図 那珂遺跡群調査地区位置図

## II 調査の記録

### 1. 調査概要

調査の対象は都市計画道路博多駅五十川線現道のセンターラインに沿った幅1.6mの連絡管布設部分の内、予め環濠の延長部分が伸びると想定される部分を限定しアスファルト舗装部分にカッターを入れ、現道の片側車線を封鎖して遺構確認面までバックホーで掘削し、確認次第作業員を投入し土層部分の清掃、遺構の検出にあたった。二重環濠の南北それぞれ内外に都合4本のトレンチ調査区を設定した。北側から順次第1、第2トレンチと呼称する。第1トレンチでは現地表から2.6m下がったレベルまで腐食土混じりのしまりに欠けた黒色土が続き、1920年代の地形図にもみられる落ち込みを埋め立てた整地上と考えられ、続く第2トレンチでは現地表下2.7mで落ち込みの際が確認されるに止まった。台地西側の那珂川に浸食されたものであろうか。南側の環濠が伸びると予想される第3、第4トレンチでは現地表下0.8mで溝がそれぞれ検出されたが、現道部分の削平が著しく第37次調査、後述の第52次調査で検出された遺構とは関連しないものと考えられる。

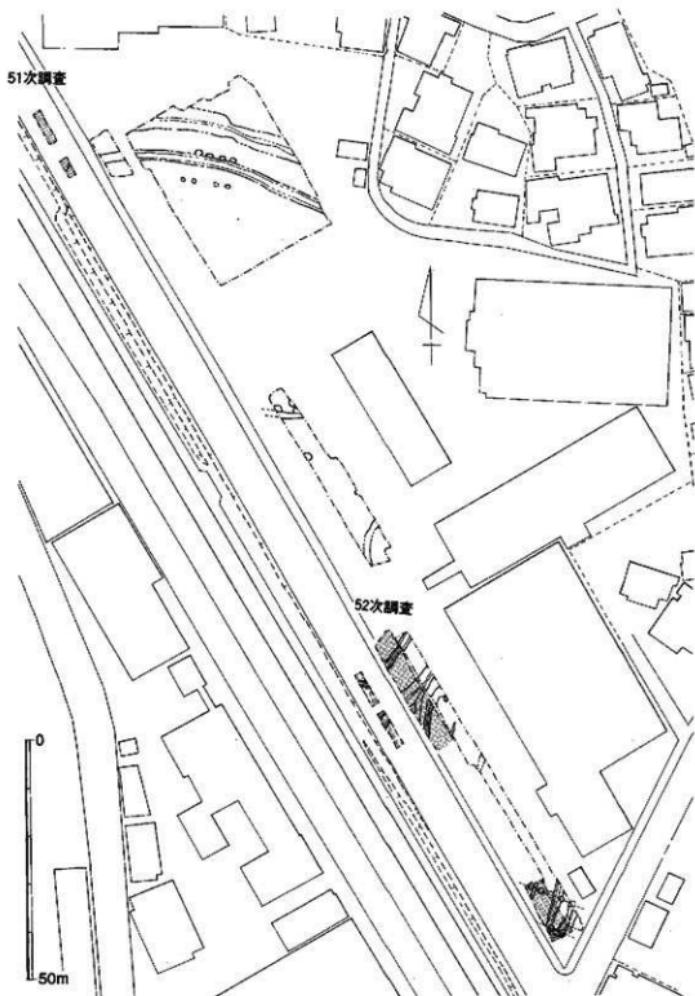
### 2. 遺構と遺物

#### 溝

S D01 (第4図、図版2) 第3トレンチ北端から2mで検出された。東西に方位をとる断面半円形の溝である。幅1.0~1.1m、深さ0.2mを測る。壁面は40°の傾斜で、床面幅0.6mを測る。延長2.0m検出した。埋土は暗灰褐色の単層であった。

S D02 (第4図、図版2) 第4トレンチ北端で検出された。ほぼ南北に方位をとる断面台形の溝である。幅1.70~1.9m、深さ0.7mを測る。壁面は60°の傾斜で、床面幅1.2mを測る。延長1.8m検出した。埋土は暗灰褐色の単層であった。北壁面VI層中から青磁花生上半部が出土した。

青磁双耳花生 口縁部が筒状の頸部から水平に延び、頸部の中央に凹線が2条、下半には玉器の龍か獸を象った耳がつく。耳の片側はほぼ欠失しているが、隻の個は残り、下部に直径3cmの不遊環がつく。筒状の胴部下半は欠失している。胎土は灰白色を呈し、マットに発色した灰オリーブ色の黏が外面は1mmの厚さでかけられている。一部に貫入がみられる。



第3図 那珂遺跡群第51次・第52次調査地域周辺図

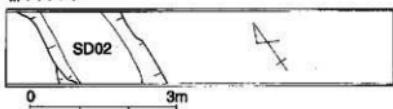
第2トレンチ



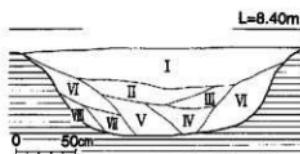
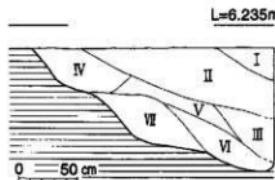
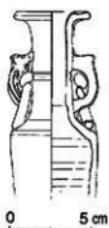
第3トレンチ



第4トレンチ



SD01 土層



第4図 那珂遺跡群第51次調査遺構配置図・出土遺物実測図

## § 2 第 52 次 調査

### I はじめに

#### 1. 調査にいたる経過

平成 4 年 10 月 2 日付けで土木局道路建設部街路課長より、埋蔵文化財課宛に「平成 5 年度所管事業計画実施に係る埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」として、博多区竹下 5 丁目～博多区那珂 6 丁目地内で計画されていた都市計画道路博多駅五十川線整備事業に伴う埋蔵文化財についての事前審査願が提出された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡群に含まれるとともに、隣接する福岡大同青果地内における第37次調査において日本最古の二重環濠とされる溝の一部が確認され、環濠の延長部分が調査区西側に延びることは確実であった。埋蔵文化財課と街路課により遺構の取扱いについて協議を行ったが、遺構の現況での保存は困難であるとして、やむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。平成 6 年度は道路の拡幅部分を調査対象地とし福岡大同青果の出入り口を境として南北 2 か所で発掘調査を行うこととし、本章で報告する第52次調査は先行した調査が行われた南側の調査対象地についてであり、北側調査対象地については次の章で報告する。調査は同年 6 月 1 日から 6 月 19 日まで行われた。

#### 2. 調査体制

事業主体 福岡市土木局道路建設部街路課

調査主体 福岡市教育委員会埋蔵文化財課

調査総括 埋蔵文化財課長 荒巻輝勝

第 2 係長 山口譲治

庶務担当 入江幸男（前任）内野保基

調査担当 事前審査 長家 伸（前任） 櫻本義嗣

発掘調査 佐藤一郎

発掘調査・資料整理協力者 尾花憲吾・楠本純次・柴田博・中村米重・森本良樹・伊藤美伸・尾崎真佐子・河津信子・桑原美津子・為房紋子・津川真千代・福田友子・藤原直子・星子輝美・吉住シズエ・萬スミヨ・相川和子・田中ヤス子・藤野邦子・藤村佳公恵

その他、発掘調査に至るまでの諸々の条件整備、調査中の調整等について土木局道路建設部街路課をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。

### II 調査の記録

#### 1. 調査概要

調査対象地は環濠の延長部分が確実であり、事前の試掘調査は行われていないが、第37次 B（立会い）調査区で調査対象地の東側に隣接した部分が幅 2m、長さ 130m にわたって調査されており、遺構が

検出されていない部分を排土置き場とし、排土置き場を挟んで北側と南側に二分して行った。調査対象地は幅4.5m、長さ40mの道路拡幅部分で、調査前には碎石が敷かれていた。遺構面は碎石直下の鳥栖ローム層上面で確認された。調査の結果、溝8条、柱列、柱穴などを検出した。

## 2. 遺構と遺物

### 検出遺構

#### 溝

S D01 (第5図、図版3) 北側調査区北端から3mで検出された。N-20°-Eに方位をとる断面逆台形の溝である。幅1.2~1.4m、深さ0.2mを測る。壁面は35~40°の傾斜で、床面幅0.7mを測る。延長4.2m検出した。第37次調査のS D02の延長に当たる。

S D02 (第7図、図版3) 北側調査区北端から11mで検出された。S D01とはほぼ平行する断面V字形の溝である。幅2.9~3.6m、深さ1.5mを測る。壁面の傾斜角度は約45°を測る。床面幅35~40cmを測る。延長3.2m検出した。第37次調査のS D01の延長に当たる。

S D03 (第7図、図版3) S D02を切る断面U字形の溝である。幅3.4m、深さ1.1mを測る。標高8.3mの南壁に段がつき、二段掘りとなっている。延長5.0m検出した。第37次調査のS D03の延長に当たる。

S D04 (第7図、図版4) 南側調査区南端から3mで検出された。N-10°-Wに方位をとる断面逆台形の溝で、幅1.6m、深さ0.6mを測る。東側は二段掘りとなっている。延長6.0m検出した。柱列SA09に切られる。第37次調査のS D05の延長に当たる。

柱列SA09 (第6図、図版3) 南側調査区で検出された6つの柱穴からなる。東端の柱穴Pit03の東半は第37次調査で検出されている。第37次調査検出の3つの柱穴からなる柱列SA07の延長に当たり、2列都合8つの柱穴から構成される。柱穴掘り方の平面形は隅丸方形をなし、直径1.0~1.2mを測る。埋土中および床面に柱痕跡が残り、直径約30cmを測る。柱間の心々距離は2.4mを測る。南北両柱列間の心々距離は6.6mを測る。

### 出土遺物 (第8図、図版5)

#### S D04出土遺物

##### 須恵器

杯蓋 (1) 口径13.0cm、器高3.5cmを測る。天井部と口縁部の境に段、沈線はなく、丸くつくられる。口縁端部は丸くおさめられ、内面には段がつく。天井部外面は回転ヘラ削り、内面はナデ、その他の部位は横ナデを施す。

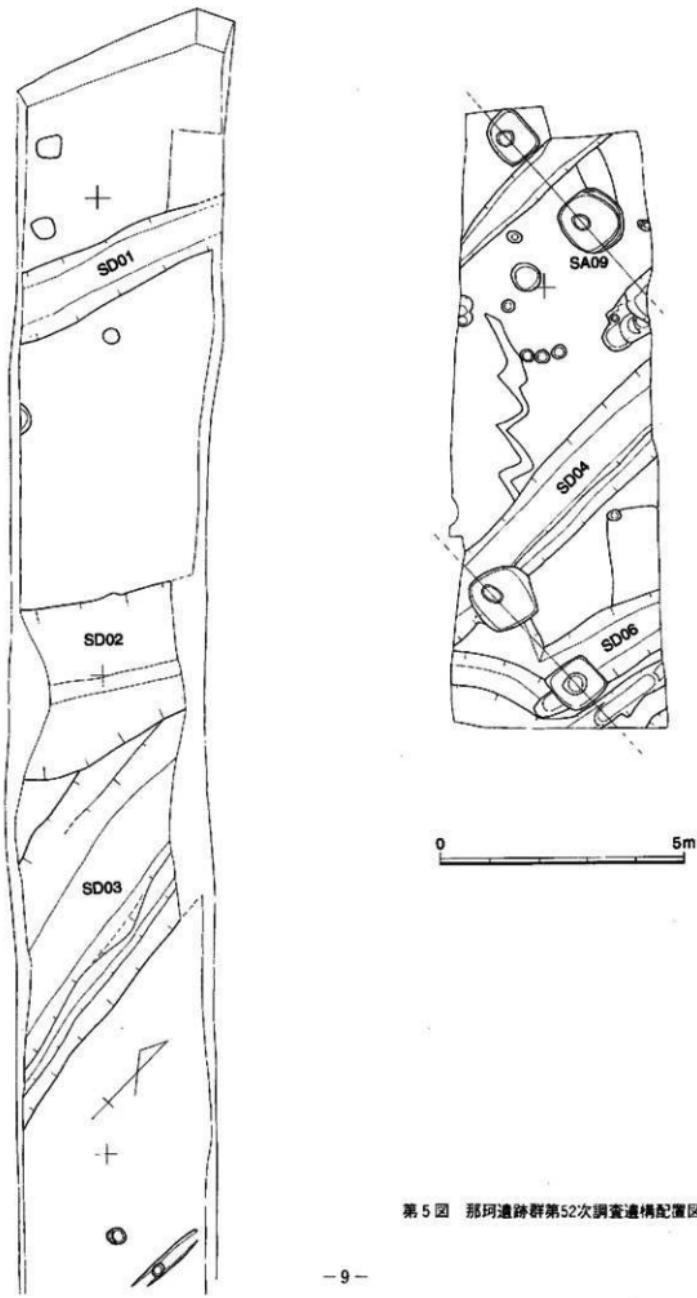
杯 (2・3) 立ち上がりの高さは0.6~0.7cmを測り、基部から短く内傾する。口径10.6~11.0cm、器高3.6~3.8cmを測る。外底部が回転ヘラ削り、内底部はナデ、その他の部位は横ナデを施す。

提瓶 (5) 口縁部は玉環状をなし外反する。肩部には退化した把手がつく。胴部は正背面とも膨らみをもつ。器面調整は口縁部が横ナデ、胴部外面には同心円状にカキ目を施す。

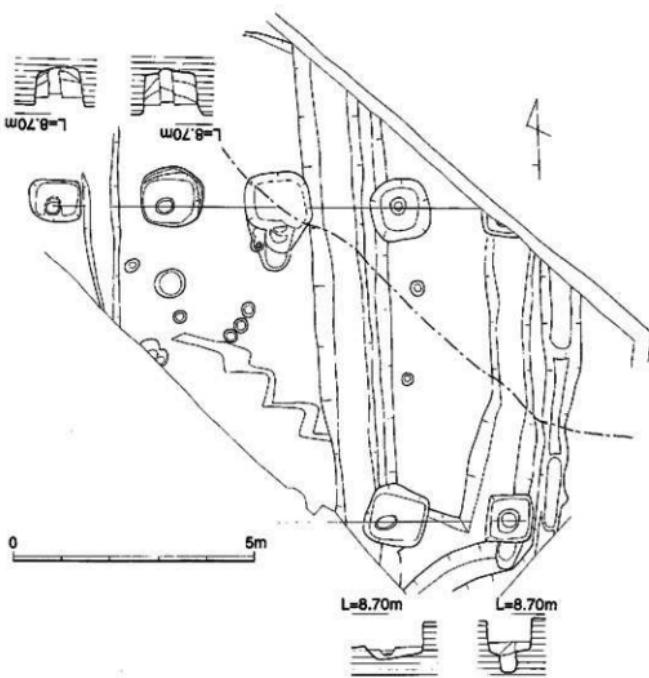
##### 土師器

杯 (4) 内湾する体部から口縁部がやや内湾気味に直線的にのびる。器表の磨滅が著しく、調整は不明。

壺 (6) 口縁は外反し、胴部との境は不明瞭で内面には稜はつかない。口径が胴部最大径よりやや大きい。口縁部は内外面との横ナデ、胴部外面は縱方向の刷毛目、内面の口縁部近くは横位に近い斜め方向のヘラ削り、それより下は斜め方向のヘラ削りを施す。底部欠失、器周残1/6からの復元。



第5図 那珂遺跡群第52次調査遺構配置図



第6図 SA09柱列実測図

**滑石製臼玉（7）**

S D06出土遺物

土師器

杯（8・9） 体部と底部の境で屈曲し、稜をなす。口縁部はやや外反し、直線的にのびる。器表の磨滅が著しく、調整は不明。

S D09出土遺物 10が柱穴Pit01、11はPit04からの出土であるが、10についてはPit01が切ったS D04に伴うものであろう。

須恵器杯（10） 立ち上がりの高さは0.9cmを測り、基部から短く内傾する。口径10.6cm、器高3.3cmを測る。外底部が回転ヘラ削り、内底部はナデ、その他の部位は横ナデを施す。外底部にヘラ記号がある。

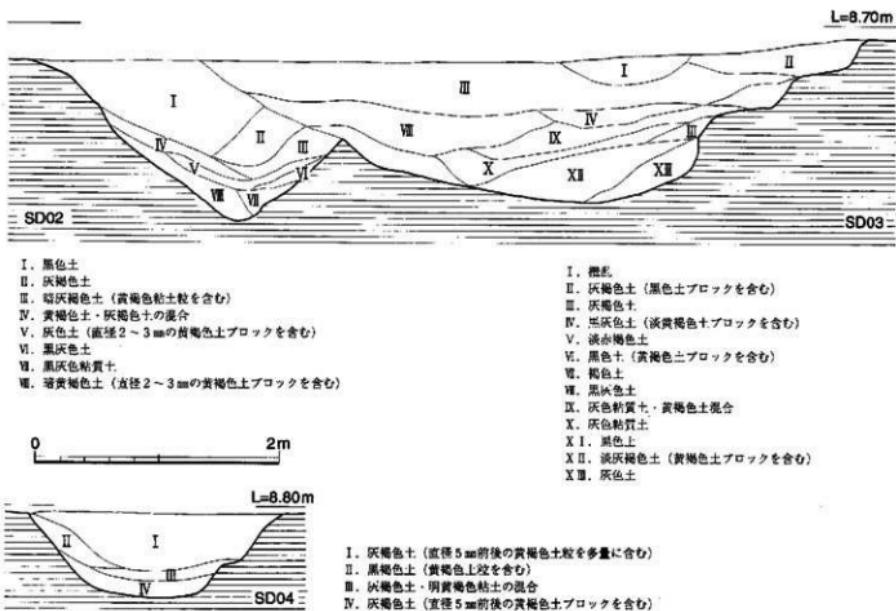
須恵器杯蓋（11） 返りをもつ口縁部小片である。

S D01出土遺物

変形土器（12・13） 12は砲弾形の器形で、口縁部外面に断面三角形の刻目突帯をめぐらせる。13は屈曲内傾し、口縁部と屈曲部の外面に断面三角形の突帯をめぐらせる。

S D02出土遺物

変形土器（14） 胸部中位以上は欠失し、内外とも底部は平坦で、外反して胸部にのびる。器表の



第7図 SD02・03・04溝土層断面実測図

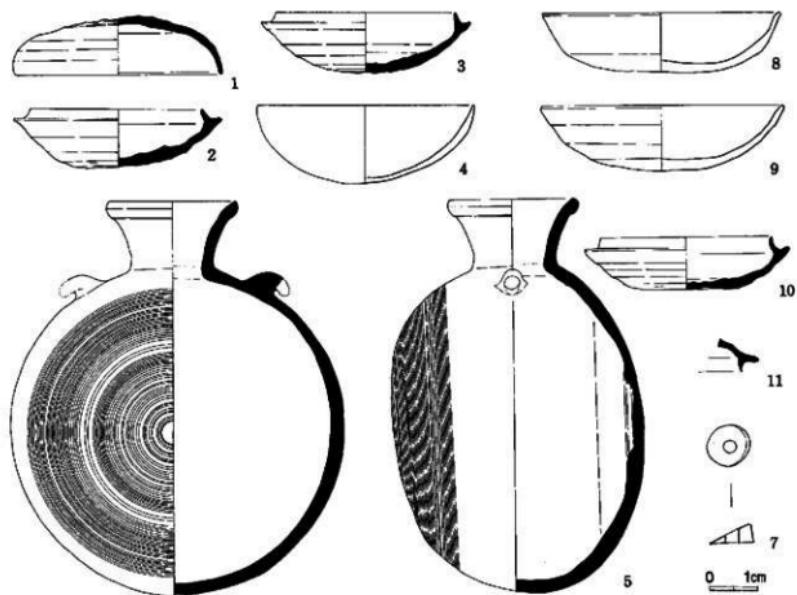
磨滅が著しく、調整は不明。

#### S D03出土遺物

**白磁 風呂 (15~18)** 15・16は碗IV類で、15は口縁を折り返し断面三角形の玉縁状となした口縁部片、16は内割りが浅く、外縁を面取りした高台をもつ底部片である。いずれも胎土は灰白色、釉は明オリーブ灰色透明を呈しピンホールがみられる。17・18は碗V類で、17は内湾気味の体部から口縁が外反する。口縁部は輪花にし、内面の口縁下に沈線、体部内面にヘラ描き、樹目による牡丹を象った花卉文を施す口縁部片である。胎土は灰白色、釉は明オリーブ灰色を呈しマットに発色している。18は細く低い断面逆台形の高台をもつ底部片である。胎土は灰白色、釉はマットな灰白色を呈する。

### 3. 小結

今回の調査は1993(平成5)年5月に市道博多駅五十川線に沿った福岡大同青果株式会社敷地の擁壁工事に伴って行われた幅2mの那珂遺跡群第37次B(立会い)調査区南西側に平行する幅4.5mの調査で、第37次B調査で検出された遺構の延長を更に確認することができた。各遺構の時期については第37次B調査報告での所見と大きな相違はない。柱列SA09は今回の調査で東西方向の2列の柱列からなることが判明した。梁間方向の柱穴は限られた調査区内では検出されなかったが、単廊の回廊状の建物の可能性も考えられる。



第8図 那珂遺跡群第52次調査出土遺物実測図

## § 1 第 53 次 調査

### I はじめに

#### 1. 調査に至る経過

平成4年10月2日付けで土木局道路建設部街路課長より、埋蔵文化財課宛に「平成5年度所管事業計画実施に係る埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」として、博多区竹下5丁目～博多区那珂6丁目地内で計画されていた都市計画道路博多駅五十川線整備事業に伴う埋蔵文化財についての事前審査願が提出された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡群に含まれるとともに、隣接する福岡大同青果敷地内における37次調査においては国内最古段階の二重環濠が確認され、この環濠の延長部分が申請地に延伸する的是確実であった。この為埋蔵文化財課と街路課により遺構の取扱いについて協議を行った。この結果遺跡の現況での保存は困難であるとして、発掘調査を行い記録保存を図ることで合意した。調査対象地は道路拡張部分とし大同青果の出入口を境として南北2ヶ所で調査を行うこととした。この際南側を先行調査をすることとし第51次調査として前章で報告している。本章で報告するのは北側調査対象地について行った第53次調査についてである。

#### 2. 調査体制

事業主体 福岡市土木局道路建設部街路課

調査主体 教育委員会文化財部埋蔵文化財課

調査総括 埋蔵文化財課長 荒巻輝勝 第2係長 山口謙治

調査庶務 第1係 入江幸男

調査担当 第2係 長家 伸

調査作業 小川博・鹿毛賢次郎・村本義夫・小路丸嘉人・脇田栄・池脛子・大音輝子・草場恵子・小池温子・指原始子・寺園恵美子・中村幸子・水田優子・平本恵子・安元尚子・柳瀬伸・吉村智子

整理作業 太田次子・戸田智恵子・石谷香代子・星野明子

### II 調査の記録

#### 1. 調査概要

調査対象は幅4.5m、長さ130mの道路拡幅部分であり、第37次調査A調査区に隣接する地区である。対象地には調査前には碎石が全体にひかれていた状態であったが、倉庫のコンクリート基礎及び土間コンクリートによる攪乱も大きく遺構面は全体に荒れた状態であった。遺構面は碎石の直下で検出した鳥栖ローム層の下部若しくは八女粘土層で削平が非常に大きい。また前述の様に隣接する大同青果内で行われた第37次調査において二重環濠が確認されており、延伸部分及び関連遺構の検出を考えられた。

調査区は中央部に深さ1m程度の大きな段落ちがあり、第37次調査区においてもこの部分では遺構は検出していないため今回の調査においても試掘トレンチで遺構の無いことを確認したのち廃土置場とした。この廃土置場を挟んで北川をA区、南側をB区として調査を行った。A区は第37次調査S D01

の延長部分から北は深さ2m以上大きく落ち込んでいる。落ち込みの埋土は腐食土の混ざったふかふかの黒色土で、瓦・現代の染付が出土している。1920年代の地図にもこの落ち込みが表現されており、現代の埋め立てによる整地であることが考えられる。このため第37次調査SD01(外濠)の延長部分は本調査区内では検出されていないが、本来は掘削されていたものか、掘削段階から郡河川の浸食により台地が削平されていたものかは不明である。また第37次調査SD02の延長部分(1号溝)は検出されたものの、汚水升の設置によりその1/2が欠失していた。この他には溝1条、井戸1基、ピットを検出している。遺物はパンケース1箱分出土している。

## 2. 遺構と遺物

### 1号溝(第11図)

A区北端部分で検出し、第37次調査SD02(内濠)の延伸部分に当たる。汚水升の擾乱により1/2を欠失する。断面逆台形を呈し、底面には小さな凹凸を多く有する。南側肩が消失しているが幅2m弱、深さ60cmを測る。埋土は横断面レンズ状に堆積し、全体がほぼ均質な黒色土であるが中位に黄褐色小粒多く含んだ層(10・11・13・14層)が挟まれている。また縦断面では東向きに僅かに下がりながらほぼ平坦に堆積している。遺物は最下層(12層)からは出土せず、埋土中位を中心に少量の土器片が出土している。

### 出土遺物(第11図)

1～3は口縁部外面に刻目突帯を1条有する壺の破片である。1は内外面共に板状工具によるナデの痕跡が残る。2は横方向の条痕を有する。3は磨滅が著しく調整不明である。

### 3号溝(第12図)

B区北端で検出す。第37次調査C調査区SD22に対応しほぼ東西に向いて掘削され南側に僅かに膨らむ溝である。東側で幅1m・深さ15cm、西側で幅50cm・深さ5cmを測る。断面直状を呈し、底面はほぼ平坦であるが底面全体に掘削時の傷痕が残る。埋土は褐色土である。土師器・須恵器の小破片が少量出土する。図示できる遺物はないが、古墳時代後期に属するものであろう。

### 2号井戸(第13図)

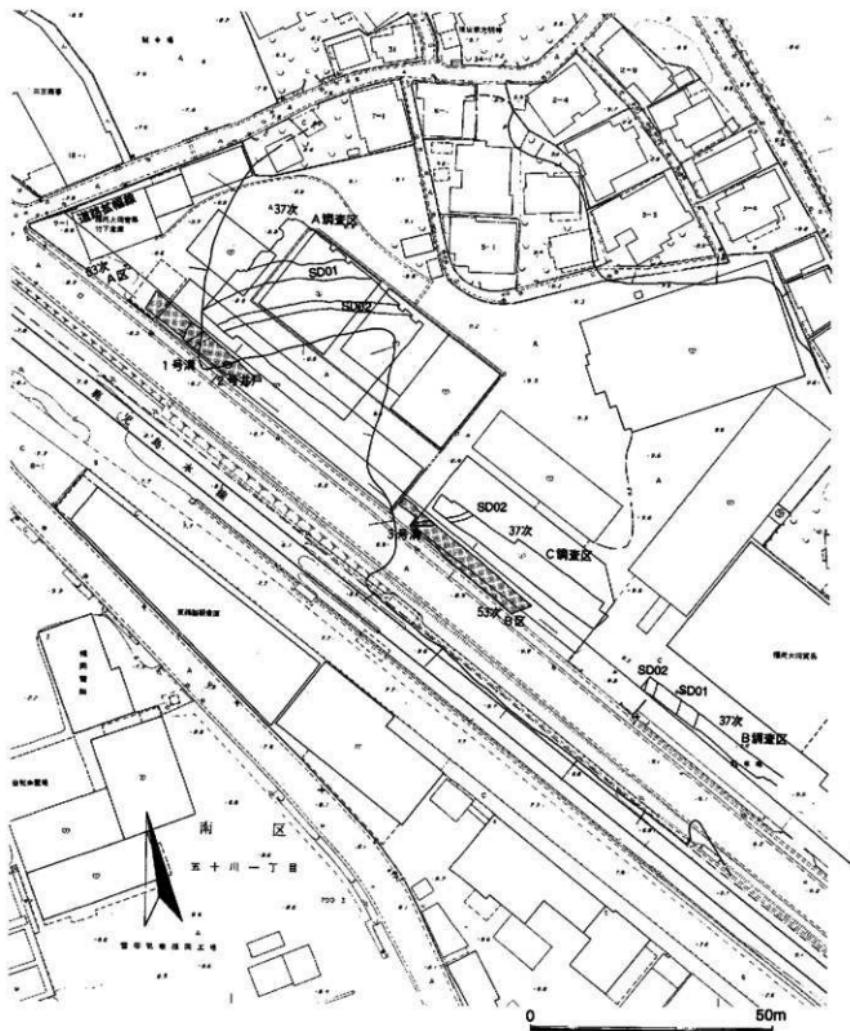
A区北側、1号溝の南側で検出す。検出面での平面は長軸1.6m・短軸1.2mの長円形を呈する。底までの深さは2.1mである。鳥栖ロームと八女粘土層の境で壁が大きく抉れている。湧水による地山の崩落に因るものであろう。埋土は上層(1～3層)が灰味が強く砂性を帯び、下層(4・5層)は崩落土により赤褐色土が基調をなす。遺物は土師器・須恵器・陶磁器・石鍋・瓦等の破片が少量出土するのみである。

### 出土遺物(第14図)

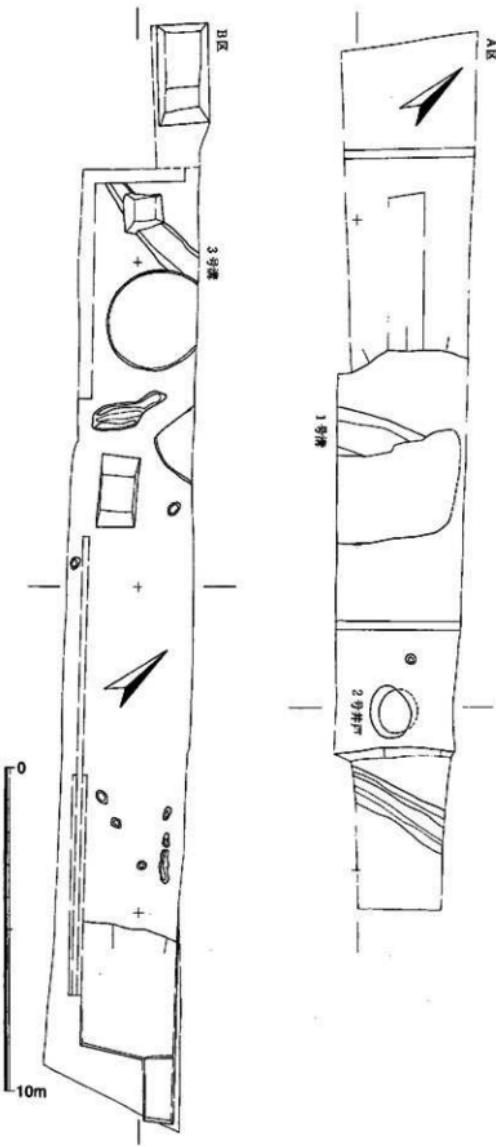
4は土師質の鉢口縁部である。淡橙色を呈し、胎土には径2mm程度の石英砂粒が僅かに混ざる。5は滑石製石鍋である。外面は鋸が巡るタイプである。復元口径18.6cmを測る。外面には細かな長方形の削り痕、内面には横方向の削り痕が残る。

## 3. 小結

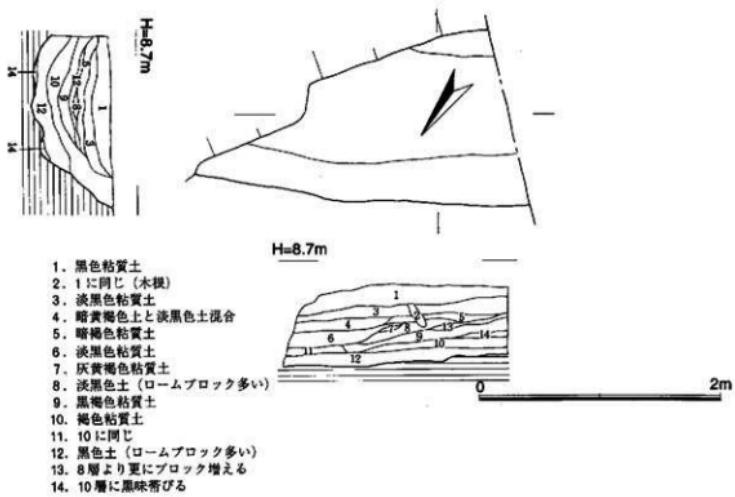
今回は調査区域が狭く、擾乱による削平が大きかったため検出遺構は少なかった。二重環濠の延長部分については、内濠については確認出来たが、外濠は落ち込みにより検出できなかった。この落ち込みに付いては埋め立ては現代のものであるが、その形成時期については不明である。台地縁辺の細かな地形の把握が今後必要となるであろう。



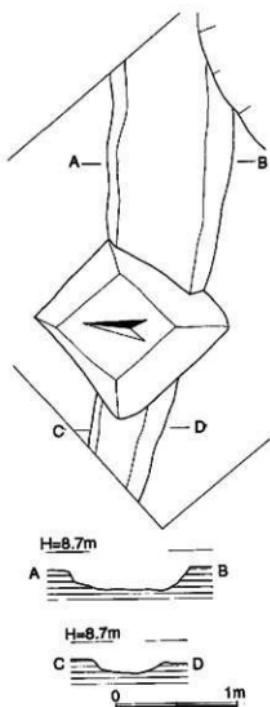
第9図 那珂遺跡群第53次調査区位置図



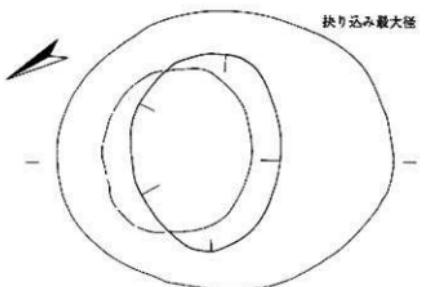
第10図 那珂遺跡群第53次調査全体図



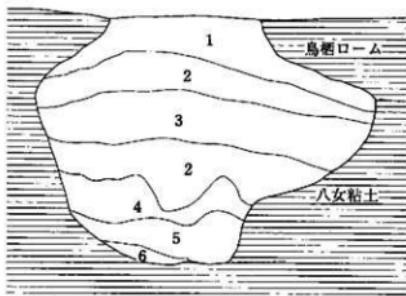
第11図 1号溝及び出土遺物実測図



第12図 3号溝実測図



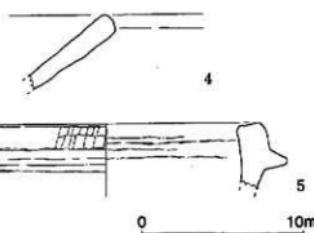
H=8.7m



1. 黒色土と赤褐色土ブロック混入  
(八女ブロックも混入)
2. 1層より八女粘土ブロック混入
3. 2層より更に八女粘土の比率ふえる
4. 褐色土と赤褐色土ブロック (八女ブロックなし)  
(上面から第6層出土)
5. 白味帶びた層赤褐色土
6. 黒褐色粘質土 (ヘドロ状、粘性非常に強い)

0 2m

第13図 井戸実測図



第14図 2号井戸出土遺物実測図

## § 1 第 54 次 調 査

### I は じ め に

#### 1. 調査に至る経過

平成 7 年 9 月 8 日付けで八尋タネ子氏より、埋蔵文化財課宛に博多区竹下 5 丁目 8-2 の物件 272 m<sup>2</sup>について埋蔵文化財事前審査願が提出された。本物件は一部が都市計画道路竹下駅前線に掛かり、道路建設後の開発が計画されていたものである。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡跡群が残されている洪積台地の西側端部に位置するため、これを受けて埋蔵文化財課では平成 7 年 10 月 5 日に試掘調査を行った。この結果申請地の東半分で遺構が確認されたため、保存についての協議を行った。協議の結果、現状での保存は困難であり、発掘調査を行い記録保存を行うことで合意した。

発掘調査は平成 7 年 10 月 9 日～平成 7 年 10 月 12 日の期間で行った。調査対象は申請地全体の 272 m<sup>2</sup>であるが、試掘調査によって遺構の確認されなかった西側半分は調査を行わず、全調査面積は 90 m<sup>2</sup>で、出土遺物はバンクエス 5 箱分である。

#### 2. 調査体制

事業主体 八尋タネ子

調査主体 教育委員会文化財部埋蔵文化財課

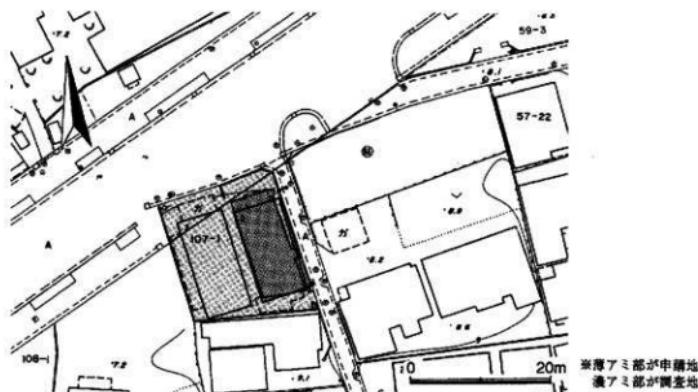
調査総括 埋蔵文化財課長 荒巻輝勝 第 2 係長 山口譲治

調査庶務 第 1 係 入江幸男

調査担当 第 2 係 長家 伸

調査作業 小路丸嘉人・脇田栄・池聖子・大音輝子・小池温子・安元尚子

整理作業 太田次子・星野明子



第15図 那珂遺跡群第54次調査区位置図

## II 調査の記録

### 1. 調査概要

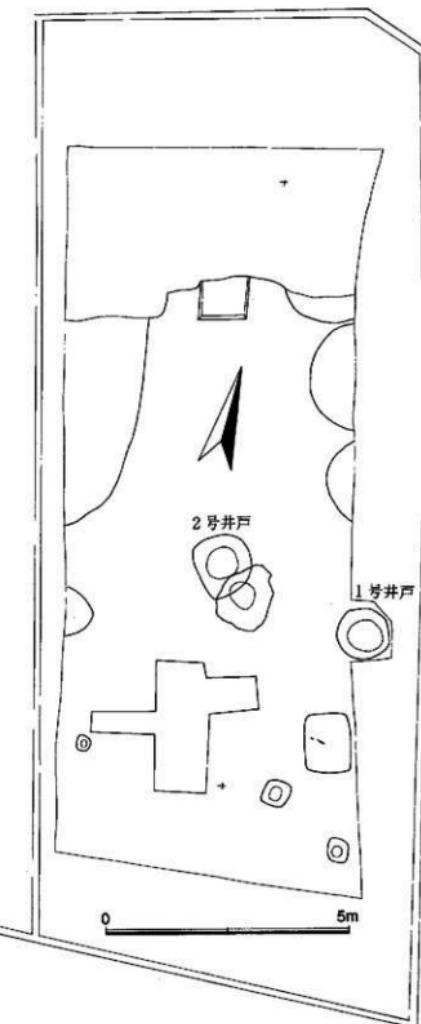
申請地は調査前現況では、ほぼ中央東西で分割された2区画の宅地となっていた。高低差は約70cm程度で西側が低くなっていた。試掘調査はそれぞれの区画に南北方向に1本ずつ設定した。この結果対象地の北側道沿いは5m幅で大きく擾乱を受けており、遺構は遺存していない。また残りの南側2/3については東側で80cm、西側で30cmの造成土を除去した直下のローム上面で遺構を検出した。遺構面はやや砂性を帯びた黄褐色ロームで、所謂鳥栖ロームの下部にあたるものであり、遺構面はかなり大きな削平受けていることが考えられた。試掘では東半で井戸1基を確認したが西側では遺構は認められなかった。

以上の結果を受け本調査においては対象地東半分について表土剥ぎを行い遺構検出をした。遺構面は大きく削平を受け、擾乱も多いため遺構の遺存状態は非常に悪かったが、弥生時代中期後半に位置づけられる井戸2基を検出した。これより浅い遺構については後世の削平により消失したものと考えられる。

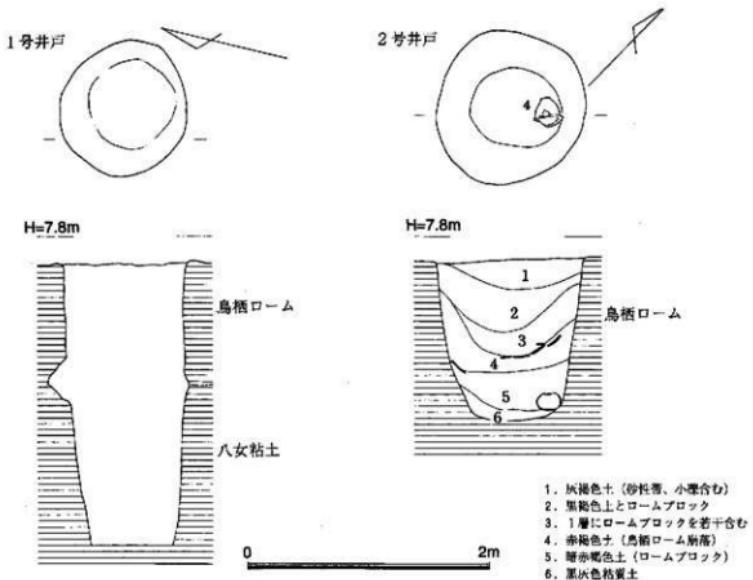
### 2. 遺構と遺物

#### 1号井戸（第17図）

調査区東端で検出した。平面は直径1.1mの正円形を呈し、深さは2.2m以上を測る。調査区の端部の道路沿いに位置し崩落の危険があったためこれ以下の削減は行っていない。断面は鳥栖ローム部分をほぼ垂直に掘り込み、八女粘土中は下部がやや狭まりながらの掘削となる。ピンボールを差し込んだところ更に1m以上の掘り込みが確認され、八女粘土以下の粗砂層まで掘り込まれた井戸と考えられる。埋土は検出面下1m程は非常によくしまった黒色土でこれ以下は黒色土に径3~5cmの鳥栖・八女のロームブロックが多く混入している。井戸最下部の未掘削部分には土器が投棄されている可能性が高いが、掘削部分までは甕・壺・高壠小破片が出土するのみである。



第16図 那珂遺跡群第54次調査全体図



第17図 井戸実測図

#### 出土遺物（第18図）

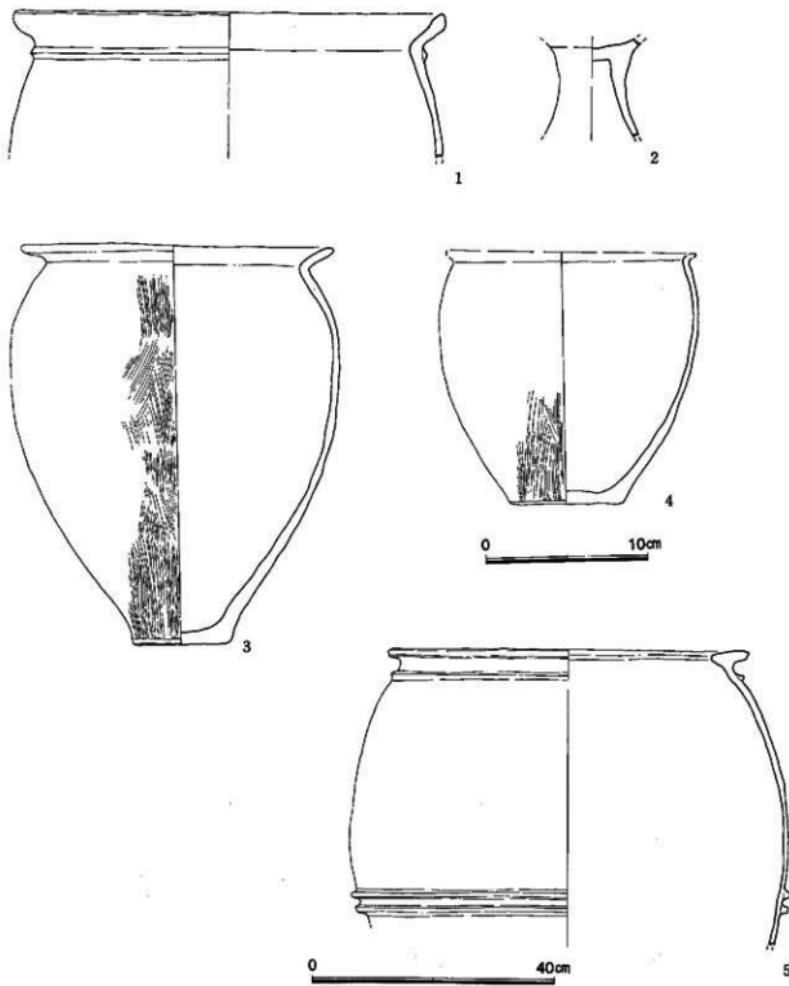
1は壺口縁部破片である。口縁部は内側に僅かに湾曲し、端部は厚手となる。また頸部外面には断面で三角形の突帯が貼付される。磨滅が著しく溝整は不明瞭であるが、内面にはナデの跡が残る。2は高环坯部である。筒径は5.4cmを測り、幅広がりとなる。

#### 2号井戸（第17図）

調査区中央で試掘調査時に確認している。平面 $1.2 \times 1.3\text{m}$ の略円形を呈す。掘り込みは八女粘土中で収まり深さ1.35mを測る。断面形は下位に向かってやや窄まり、底面は中央が緩く窪む。埋土褐色土を基本とし鳥栖・八女の大ブロックが多く含んでいる。遺物は1～3層中からほとんど出土せず、4～6層からの出土が主体である。また4層中からは上面を中心として壺棺上半部分の破片が埋没途中で底面に敷かれたかの様な状態で出土している。形を保っていたものが埋没中の土圧で潰れたような状態でなく、人為的に埋め戻す途中で破片を投棄したような状態であった。またほぼ底面に接して略完形の壺（3・4）が2個体出土している。

#### 出土遺物（第18図）

3は図示していないが底面から出土した壺である。口縁部は「く」字に開く。また胴部は上半1/3程に最大径を有する腰高の器形となる。調整は外縁刷毛、内面ナデによる。胎土には石英砂粒を含み、明赤褐色を呈する。4は出土状況を図示している壺である。3よりも頸部の締まりが緩く、口が広くなる。口縁端部が欠失しているが、出土時には端部まで完存していた。外縁刷毛目、内面ナデによる調整を行う。5は壺棺上半部分である。逆し字状の口縁部上面は内傾し、胴部に向かって広がる。頸部に三角突帯を1条、胴部に断面台形の突帯を2条有する。器面は剥落が著しく、黄橙色を呈する。



第18図 出土遺物実測図

### 3. 小 結

今回の調査地点は削平が大きく、掘削深の深い井戸2基のみの検出であったが、台地西端部に弥生時代中期後半の生活遺構が広がっていたことを確認することが出来た。今後周辺の台地縁辺部の調査によって該期の遺構の広がりが明確になるであろう。

# 図版

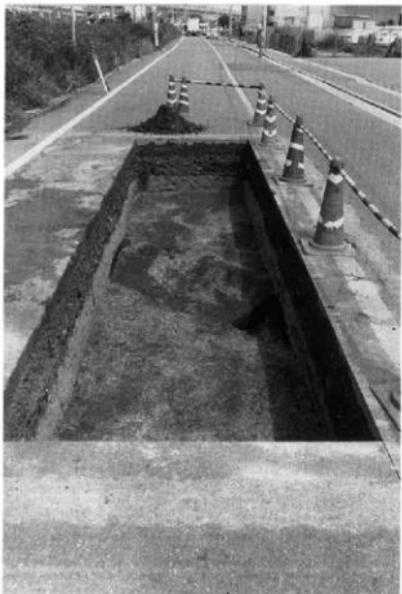




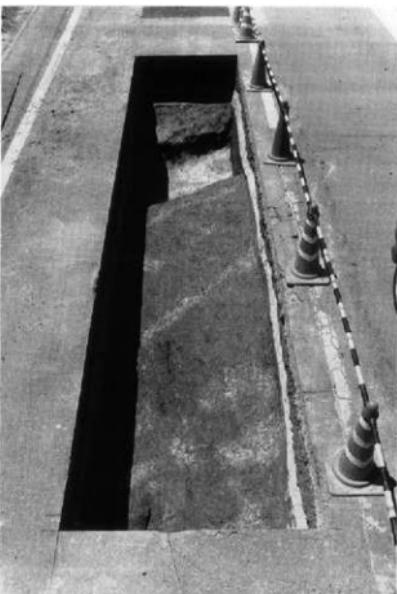
(1) 那珂遺跡群第51次調査第1トレンチ（南東から）



(2) 那珂遺跡群第51次調査第2トレンチ（南東から）

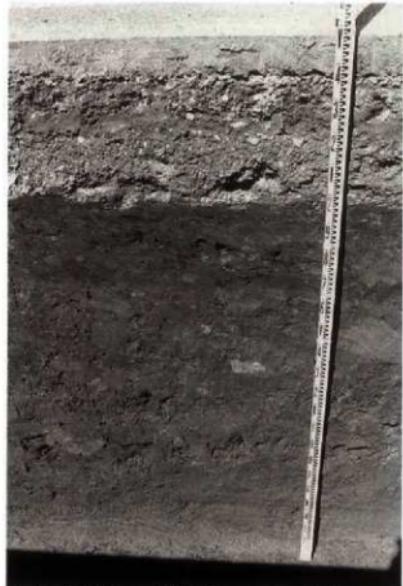


(3) 那珂遺跡群第51次調査第3トレンチ（北西から）



(2) 那珂遺跡群第51次調査第4トレンチ（南東から）

図版 2



(1) 那珂遺跡群第51次調査第1 トレンチ土層  
(南東から)



(2) SD01 溝土層（東から）



(3) SD02 溝（西から）



(5) SD02 出土遺物



(4) SD02 溝土層（南西から）



(1) 那河遺跡群第 52 次調査区北側全景（南西から）



(2) 那河遺跡群第 52 次調査区南側全景（北西から）



(3) SD01 溝（南から）



(4) SD02・03 溝（西から）



(5) SD02 溝土層（西から）

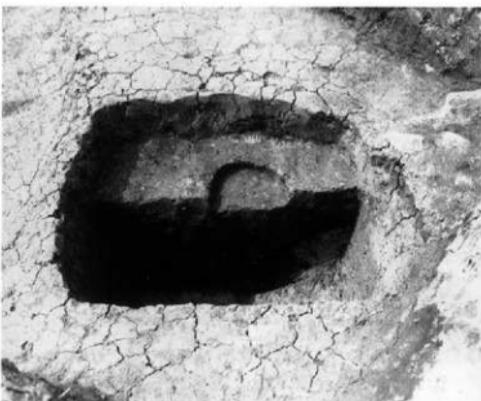


(6) SD03 溝（南から）

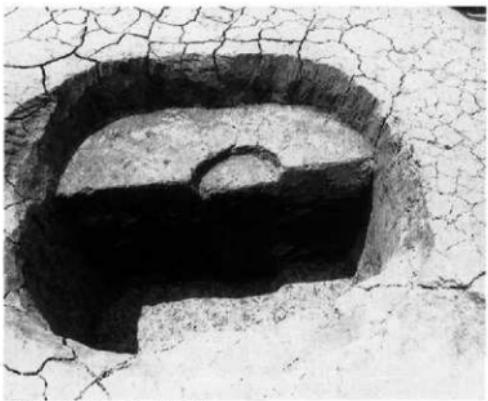
図版 4



(1) SD04 溝土層（南西から）



(2) Pit01 柱穴土層（北から）



(3) Pit02 柱穴土層（北から）



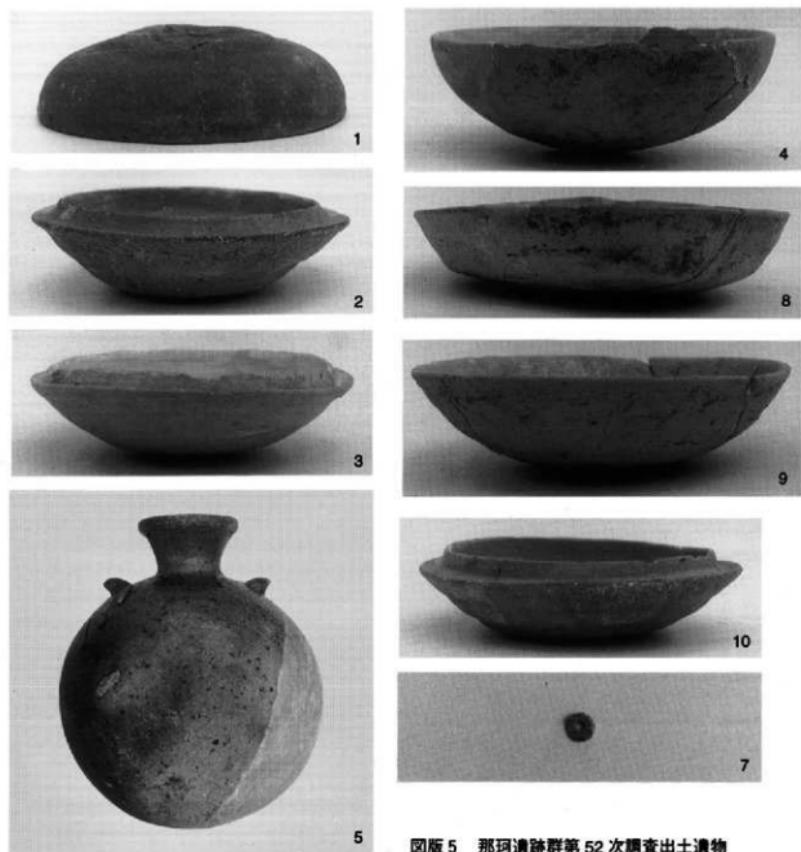
(4) Pit03 柱穴土層（南西から）



(5) Pit04 柱穴土層（南から）



(6) Pit05 柱穴土層（南から）



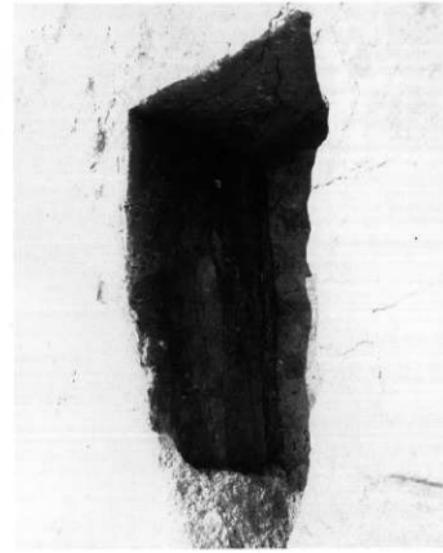
図版 5 那珂遺跡群第 52 次調査出土遺物



(1) 那珂遺跡群第 53 次調査 A 区全景（北西から）



(2) 那珂遺跡群第 53 次調査 B 区全景（北西から）





(1) 那珂遺跡群第 54 次調査全景（北西から）



(2) 1号井戸（西から）



(1) 2号井戸土層（南から）



(2) 2号井戸（南から）



---

那珂遺跡 19  
—那珂遺跡群第51～54次発掘調査報告一  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第525集  
1997年（平成9年）3月31日

発 行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神一丁目8-1  
(092) 711-4667

印 刷 (株)鶴井精華堂  
福岡市博多区台東一丁目34-3

---



